

2012年1月17日
株式会社ビットウェイ
インフォメーションシステムズ株式会社

直近 1 週間前後に予測される全国の地震発生情報を提供する 新サービス「地震予測情報」を配信開始

株式会社ビットウェイ(本社:東京都台東区、代表取締役社長:小林 泰、以下ビットウェイ)は2012年1月18日より、地震発生を短期的に予測するサービス「地震予測情報」をスマートフォン、フィーチャーフォン(従来型携帯電話)およびパソコン向けに順次提供します。

「地震予測情報」は、インフォメーションシステムズ株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:平井 道夫)の運営する地震解析ラボ(所長:電気通信大学名誉教授・早川正士)が地震電磁気現象に関する研究結果を元に観測、解析した全国の地震発生の予測情報を、ビットウェイが一般ユーザー向けサービスとして提供します。直近1週間前後の短期間に発生すると予測される地震について、時期、地域、規模の情報をサービス利用者のスマートフォン、フィーチャーフォンおよびパソコンに毎週1回配信します。

予測は、地震に先行して発生する電離層擾乱^{じょうらん}や電磁放射の状況を観測、解析して作成されます。VLF 解析、ULF 解析等の解析データを用いることで、より高い精度の予測システム構築を目指していきます。

昨年の東日本大震災後も震度3を超える地震が度々発生しており、地震に対する関心が一層高まっています。現在の技術では地震発生を100%予測できるものではありませんが、短期的な発生予測である「地震予測情報」が、地震による被害を低減するための防災支援情報として活用していただけるサービスになればと考えています。

【サービス画面イメージ】

EAL地震予測情報

EAL(地震予測ラボ)が予測・発信する地震予測情報です。「留意事項」をご理解・ご了承の上、ご覧ください。各予測をクリックすると、予測情報の詳細がご覧いただけます。

前のページ
次のページ

情報公開日	2011年09月12日発表	※2011年9月5日に公開された予測の更新情報(最新情報)です
予測期間	2011年09月15日(木)を中心日とする、 2011年09月13日(火)～2011年09月18日(日)	
予想される地震レベル (マグニチュード)	内陸が震源の場合: M4.5以上 海底が震源の場合: M4.5以下	
予想される地域	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #f4a460; padding: 2px 5px; font-weight: bold; font-size: x-small;">エリア2</div> <div style="margin-left: 5px;"> <p style="margin: 0; font-weight: bold;">首都圏・上信越</p> <p style="margin: 0; font-size: x-small;">千葉県東部～東沖 茨城県東方沖</p> </div> </div>	
<div style="font-size: 2em; color: red; font-weight: bold; opacity: 0.5;">Sample</div> <div style="font-size: x-small; margin-top: 5px;">エリアの区分けは、右の画像でご確認ください</div>		
予想される被害	<input type="checkbox"/> 大きな被害が予想されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 少なからず被害が予想されます。 <input type="checkbox"/> 地盤等の条件により被害が予想されます。 <input type="checkbox"/> 大きな被害には至らないと予想されます。	
備考	<input style="width: 100%;" type="text"/>	

【「地震予測情報」について】

<配信内容>

- 1)発生が想定される中心日:おおむね発表日から1週間前後
- 2)発生が予測される期間:中心日から前2日後6日～
- 3)発生規模:M6.0±0.5以上、M5.0±0.5の2段階
- 4)予測地域:以下5地区に日本全国を分割し、発生が予測される地域名称を配信
 1. 北海道・東北
 2. 首都圏・上信越
 3. 東海・中部
 4. 近畿
 5. 九州・中国・四国
- 5)被害規模予測
- 6)M6.0アラートメール(一部端末向け)
- 7)震度3以上の地震発生情報
- 8)防災の心得など

<サービス概要>

- 1)サービス名称:地震予測情報
- 2)価格:月額210円(税込)
- 3)配信情報:上記「配信内容」参照
- 4)配信頻度:週1回配信(毎週火曜日)
- 5)情報提供元:地震解析ラボ(詳細は下記参照)

「地震解析ラボ」について(<http://earthquakenet.com/>)

「地震解析ラボ」は、電気通信大学名誉教授・早川正士氏が所長を務める研究機関で、大規模な地震の前兆現象に関する研究を行っている。「数日前から1ヶ月程度前に地震を予測する」という短期予測の観点から地震の観測、解析を行い、防災・減災・BCPの関係者へ解析結果を提供している。運営はインフォメーションシステムズ株式会社。

6)利用端末:スマートフォン(Android 携帯、iPhone)、フィーチャーフォン、パソコンから利用可能

7)アクセス方法:

【フィーチャーフォン用 QR コード】

■フィーチャーフォン

【au】EZトップメニュー >メニューリスト >住宅・暮らし >セキュリティ >地震予測情報

【ソフトバンクモバイル】Yahoo!ケータイ >メニューリスト >くらし・健康 >くらし総合 >地震予測情報



■スマートフォン、パソコン

【スマートフォン用 QR コード】

【クラブビットウェイ】<http://www.bitway.ne.jp/earthquakenet/club/>

※クラブビットウェイより、クレジットカード決済でお申し込みの方は、2012年1月度利用料が無料となります。

【Yahoo!】<http://www.bitway.ne.jp/earthquakenet/yahoo/>

【BIGLOBE】<http://www.bitway.ne.jp/earthquakenet/biglobe/> ※リリース日未定



8)決済方法:以下の課金決済が利用可能

1. フィーチャーフォン:ソフトバンクモバイル(1月18日)、au(1月19日)
2. スマートフォン:クラブビットウェイ(1月26日)、auかんたん決済(2月中旬)
3. パソコン:クラブビットウェイ(1月26日)、Yahoo!ウォレット(1月26日)、BIGLOBE(※リリース日未定)

今後、各携帯キャリアでの配信や Android Market でのアプリ提供も予定しています。

【用語説明】

<電離層擾乱じょうらん>

VLF/LF 送信局電波を用いた電離層擾乱の研究はロシアグループが以前に行っていたが、早川正士らが神戸地震(1995年)の際に明瞭な電離層擾乱を発見してから本格的に研究が開始された。その後、電気通信大学グループは VLF/LF データ解析の新手法の提案や長年にわたるデータから、地震に伴う電離層の擾乱の存在はほぼ疑いないことを統計的に検証しており、その研究で世界をリードしている。日本 VLF/LF ネットワークに刺激され、欧州 VLF/LF ネットワークが構築され、現在ではインド及びブラジルにおいて日本と同様のネットワークが稼働し始めている。

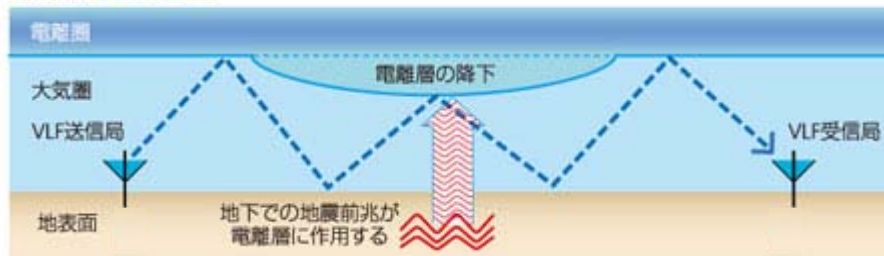
<VLF 解析>

VLF(周波数 3-30kHz)/LF(30-300kHz)手法の原理

電離層擾乱がない時、送信局からの VLF 電波が 1 秒後に受信点で受信されるとすると、地震の前では電離層が数 km 低下すると、光路長が短くなり、0.99 秒で到達する。これを位相が進むという。受信点での振幅と位相を正確に測定すると、電離層の異常が検出される。

国内に 8~10 か所の観測点を置き、各観測点ではそれぞれ 5~7 局の VLF/LF 送信局電波を受信する。たとえば、福島の JJY 局(40kHz)、宮崎の JJI 局(22.2kHz)、オーストラリア西部の NWC 局(19.2kHz)他。送受信点を結ぶ楕円によりメッシュが構成され、いろいろなパスでの以上の発生状況により、電離層擾乱の場所、マグニチュード、日程を予測する。

VLF観測システム



<ULF 解析>

- ・磁力計にて ULF 放射の受信をして地震予測する。検知半径は 50~80km。
- ・地震は地下での破壊現象ですが、これをプラスチックの下敷きを折り曲げて割る現象に例えると一下敷きをゆっくり折り曲げると、完全に割れる前には必ずパチパチというクラック(ヒビ)が入り始め、更に曲げるとバキッという音とともに割れます。これが地震です。
- ・上記のパチパチ音の発生時、同様に地価では微小破壊(マイクロフラクチャ)が起こり、無数のクラックに電気が発生します(摩擦電気、圧電効果により)。言い換えると、小さなアンテナが多数発生するもので、その際色々な周波数の電波が放出され、そのうちの極超低周波(ULF=Ultra-low-frequency、周波数 1Hz 以下)(主としては 100 秒周期)が地表近くで受信される(高周波の電波は地下での伝搬損失を受け計測できない)。
- ・ULF 電磁放射(電磁場変動)は他に、Electro-kinetic effect(界面導電現象)と電気伝導度変化によるものがある。
- ・ULF 放射の典型的時間変化。地震の 2~3 週間前に第 1 番目の強度増強、その後、嵐の前の静けさ、そして地震の数日前からまた強度上昇し、地震となる。その後は徐々に減少しもとのレベルになっていきます。

<参考>

【株式会社ビットウェイ】

所在地：東京都台東区台東1丁目5番1号

代表取締役社長：小林 泰

事業内容：デジタルコンテンツの仲介によるキャリアおよびポータルサイトからの収益事業

企業サイトURL：http://www.bitway.co.jp

ビットウェイについて：

ビットウェイは2003年に世界初となる携帯電話向けコミック配信サイト「Handyコミック」を開始しました。2006年より携帯電子書籍取次事業を展開、2010年からは新プラットフォーム向けの電子書籍流通事業も行っています。ビットウェイは、インターネットを通じ社会に役立つ事業を展開し、常に時代の要請に応えるコンテンツサービスを提供していくことを目指します。

【インフォメーションシステムズ株式会社】

所在地：東京都港区北青山2-12-42

代表取締役社長：平井 道夫

事業内容：・産学連携による地震情報の提供 ・地震に関わる各種観測機器の研究および開発

企業サイトURL：http://earthquakenet.com/

インフォメーションシステムズについて：

2010年に設立し、地震予知学の研究とそれにとまなう地震予測情報を提供する「地震解析ラボ」を運営。「人の生命と財産を守る(その願いをこめて)」の思いで地震予測情報を配信しています。

※記載されている会社名および商品名/サービス名は各社の商標または登録商標です。

以上

< 本件に関するお問い合わせ先 >

e-mail：press@bitway.ne.jp